

市立

いちかわ 自然博物館だより

令和6年(2024年)

6-7月号

(通巻 212号)

2024年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

セスジスズメ(幼虫)
黒い体に、黄色から橙色の丸い紋があるイモムシです。スズメガ類の幼虫は飼育が容易で、展示によく使います。

P1 ☀️ いきもの写真館
セスジスズメ(幼虫)

P2 / 3 ☀️ 肌感覚の気象の記録
肌感覚の6月と7月

P4 ☀️ 花を透明にして観る
ソメイヨシノ

P5 ☀️ 長田谷津のとりたち
メジロ

P6 ☀️ くすのきのあるバス通りから
にぎやかな季節

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
カエルのホットカーペット

P7 ☀️ わたしの観察ノート
3～4月頃の記録

P8 ☀️ ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。





肌感覚の気象の記録



自然博物館では、日々の自然観察の記録を「自然観察週報」としてまとめ、web サイトで公開しています。自然観察週報には、週単位の気象の記録もあります。数値ではなく、自分たちが体験した気象を文字で書いた記録です。科学的とは言えませんが、生活実感には近い内容になっています。

肌感覚の6月、7月

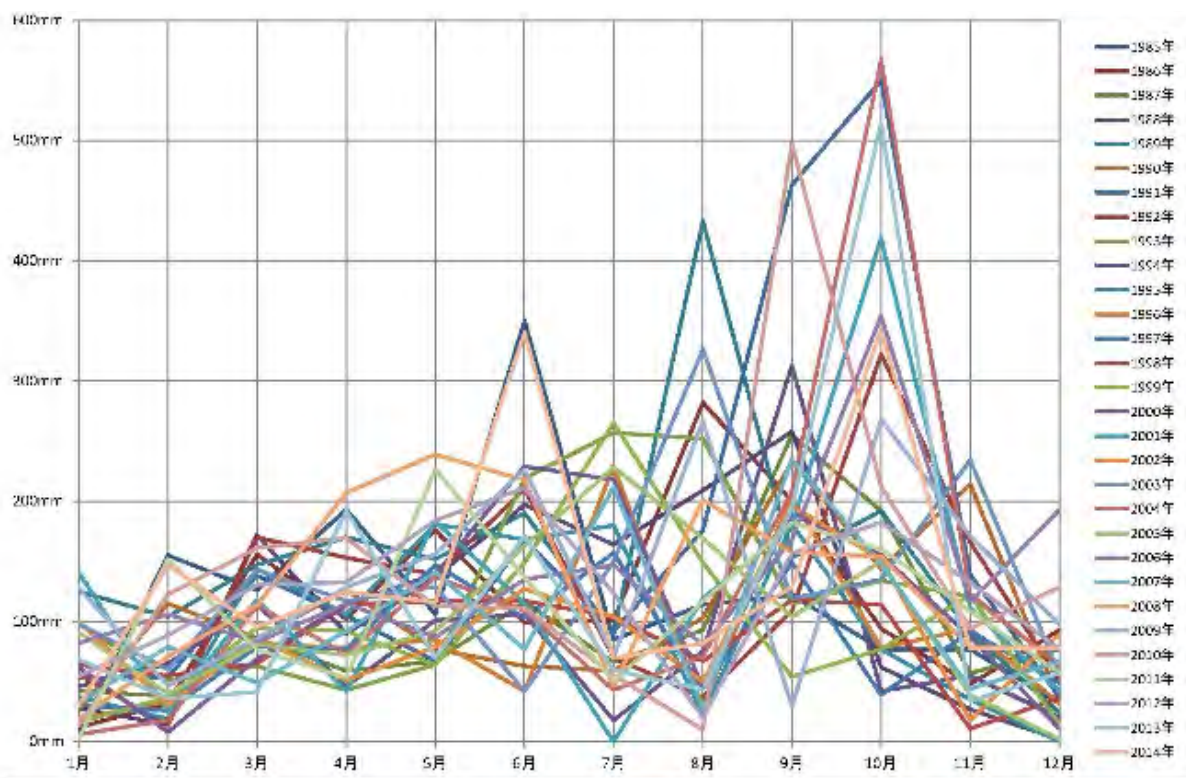
6月は梅雨入りの月、7月は梅雨明けの月です。人によっては、春夏秋冬の四季に梅雨と秋雨を加えて六季という見方をしますが、実際は、例えば梅雨時期の降水量が前後の月とくらべて明確に多いわけではありません。むしろ年による変動の方が大きいようです（グラフ参照）。6月、7月は、4月、5月の晴れと雨を繰り返す気候がより強く現れる、と考えた方がいいか

もしれません。

季節については、やはり大陸の高気圧に覆われていた冬から、移行期の春を経て、太平洋高気圧に覆われる夏へ移り変わるという方がわかりやすそうです。天気番組が梅雨を意識して報道するので、どうしても梅雨入り前か後か、梅雨明け前か後かを気にしますが……

雨が多かった梅雨は、2020年です。6月、7月の記述を順に示します。

船橋アメダスの記録からグラフ化した年ごとの各月の降水量（1985年～2014年）



6月11日に梅雨入りしました。その日から雨が続きました。強風の日もありました。(2020年6月1週)

晴れる日もありましたが、いまのところ順調に雨が降っています。梅雨に雨が降らないという問題があるので、よかったです。(6月2週)

しっかり雨が降り、合間の日差しもありました。気温の差が大きく、体調管理に気を使います。(6月3週)

雨降りが多い週でした。今年の梅雨は、ほんとうに雨が多い印象です。(6月4週)

先週に続き、連日のように雨が降りました。九州では線状降水帯も発生し、九州～東日本の各地で大きな災害となりました。継続中の豪雨災害に対して「令和2年7月豪雨」と気象庁は命名しました。(7月1週)

雨の日が続きましたが、市川市域では長引く大雨はありませんでした。「令和2年7月豪雨」に対する警戒は各地で続きました。(7月2週)

本来なら夏休みに入った週です。(注：新型コロナで休校した分、夏休みが短縮された) 最高気温が30℃に届きそうな日が少しありました。(7月3週)

8月1日ようやく梅雨が明けました。梅雨が明けた途端、猛暑がやってきました。(8月4週)

一方、昨年(2023年)の記述は様子がいぶん異なります。暑さのことばかりです。

晴れると夏の暑さになり、雨が降るとひんやりしました。極端な気候が続く印象です。(2023年6月1週。注：この週に梅雨入りしました)。

台風が接近しましたが、大きな影響はありませんでした。梅雨前線の影響で大雨が降った地域がありました。(6月2週)

夏を思わせる日差しの日でも、吹く風はまださわやかでした。日陰の涼しさにもほっとしました。(6月3週)

暑さに湿気が加わるようになりました。湿度が高いと、曇っていても体にこたえます。(6月4週)

熱中症という言葉が飛び交いました。でもまだ風は涼しく、木陰はさわやかでした。(7月1週)

猛烈な暑さがやってきました。園内を歩く人影は、ぱったり無くなりました。(7月2週)

列島が酷暑と大雨で大変な週でした。酷暑の市川市域では、日中、人の姿はわずかでした。(7月3週)

すさまじい猛暑の週でした。陽射しは強く、夕立は、気配すらありませんでした。(7月4週)

まとまった雨は7月6日を最後にありません。1ミリ以下の雨がその後2回あっただけで、カラカラです。(7月5週)

2014年の記述には、晴れと雨が繰り返す様子が現れています。

6月5日に梅雨入りしました。その日からしっかり雨が降りました。(2014年6月1週。注：しっかりどころか、関東は記録的大雨でした)

時々ぱらつきましたが、あまり雨が降りません。今週だけで言えばカラ梅雨のような感じでした。(6月3週)

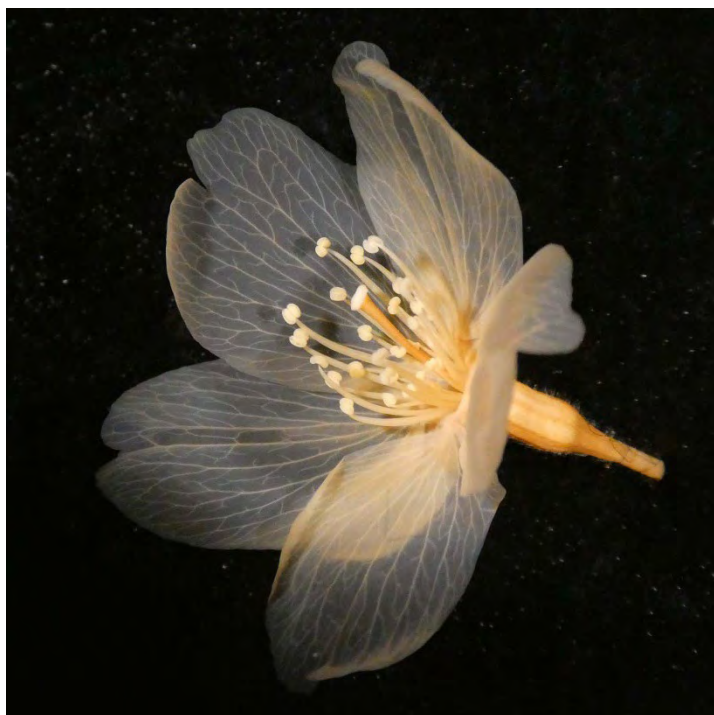
梅雨らしく雨がよく降りました。激しく降る日もありました。(6月4週)

台風通過後は、晴れて蒸し暑くなりました。その後も真夏日が続きましたが、梅雨明けの報はありませんでした。(7月2週)

花を透明にして観る*****

ソメイヨシノ

花を薬品で処理して透明にしました。一般的な押し葉標本だと花も平らになってしましますが、この方法だと立体を保ったまま内部構造を見ることができます。印刷物にすることで結局、平面になってしましますが、実物をそのまま見れば立体的に花のつくりを理解することができます。



ソメイヨシノの正面側

- ・ 花弁は5枚。花弁の起源は葉なので、葉脈のような筋がある。
- ・ 花弁の色を抜いたことで、雄しべ、雌しべが際立つようになった。
- ・ 多数のおしべと1本のめしべ
- ・ 雄しべの先の葯(やく)、雌しべの先の柱頭が、はっきり見える。

ソメイヨシノの背面側

- ・ 星形に広がる5枚の萼(がく)
- ・ 写真の花では、萼の1枚(左下)が花弁化している。萼も花弁も起源は葉で共通なので、こういうことは起こり得る。
- ・ 萼は縁にギザギザがある。ギザギザの有無はサクラ類の種類の判別で使うポイントのひとつ。ソメイヨシノの親とされるオオシマザクラとエドヒガンの萼はギザギザがあるが、ヤマザクラにはない。



長田谷津のとりたち

自然博物館で行っている鳥類調査の記録から
一押しのとりにちをエピソードと共に紹介します。

メジロ

メジロは東アジアに分布する鳥です。日本では北海道から沖縄まで日本全国で見ることができます。平地から山地の樹林に生息しており、庭先でも普通に見ることができます。実った柿の実を食べにきたり、花の蜜を吸ったりとまさに『身近な鳥』です。長田谷津でも一年中観察することができ、エナガやシジュウカラ、ヤマガラ、コゲラとともに混群(こんぐん)を作り大きな群れで行動しています。メジロを観察していて非常に興味深いのは混群やメジロのみの小群でも、2個体で連れ添うように行動している姿をよく見ることです。この2個体は、オスメスのペアだと思われます。繁殖期(4月から6月)から離れた10月や11月でもこのような行動をみるので、ペアの形成がとても早い鳥なのかもしれません。



(2019年02月12日 長田谷津)

メジロの巣の素材は？

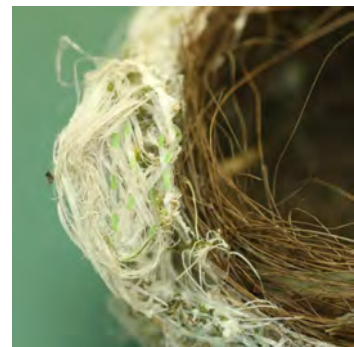
2024年5月24日、長田谷津の隣の動物園で拾ったメジロの巣を飼育員さんがもってきてくれました。卵も雛も入っておらず、巣が完成した状態で何らかの理由で落ちてしまったようです。巣の素材は大きく2種類あり、内側はシュロや竹の葉などの植物繊維で、外側にビニール紐を裂いたような人工繊維を使っていました。カラスが巣作りにハンガーを利用するようにメジロも人工物をうまく利用しています。



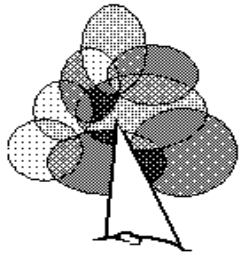
外径:74.8mm 内径:45.3mm
深さ:56.7mm



巣の外側は人工繊維で覆われる



うまく使い分けられている
人工繊維と植物繊維



にぎやかな季節

東京国立博物館の敷地にある、ユリノキの花を見に行きました。すでに終わっていて、職員の方が「例年開花が早まっている」と。寒暖の差や天候によって、目当ての花が、まだ咲いていない場合は「来週見に来ましょう」ですが、終わってしまっていると「来年、また来なきゃ…」となります。

フジ・キリ・センダンは連休前に咲いて、エゴノキも早かったように思います。スイカズラ・ニシキウツギ・柑橘系の木の花・ザクロが咲いています。今年は、グミが沢山赤い実をつけ、ウメの実やカキの小さな実が道路に落ちています。

道路の端には、ヒメツルソバ・ツタバウンラン・マルバウンラン・アメリカフウロ・キキョウソウ・ムラサキツユクサが咲いています。キキョウソウは京成電鉄の線路際にもあります。

本八幡駅の近くのビルの上で、イソヒヨドリが鳴いています。住宅地では、洗車した水が道路のくぼみに溜まるとスズメが順番に水浴びをします。庭の、ハスを植えてある鉢に、キジバトが水を飲みに来ます。オナガ・ムクドリ・ツバメ・スズメの、子が親を呼ぶ声、鳥同士が警戒し、けん制する声などが絶えず聞こえます。にぎやかな季節です。

(M. M.)

No.55

展示室 飼育生物の話題

カエルのホットカーペット

博物館の展示室は、冷房がやや強めです。展示している標本や剥製を虫害やカビ害から守るためなのはもちろん、高温が苦手な飼育生物が多いことや、併設の動物園の炎天下からの逃げ場所という意味合いもあります。博物館の展示室はどこも同じなので、他館へお出かけの際にも羽織るものがあるといいと思います。

よく冷えた展示室は、変温動物の爬虫類と両生類には不都合です。体温が下がり、餌を食べなくなってしまいます。特に水苔を使った飼育ケースだと、湿った水苔全体が冷えてしまいます。そのため当館では、ひよこ電球のヒーターやパネルヒーターのほかに、特にカエルの飼育ケースでは家庭用のホットカーペットを保温用に使っています（写真：水槽の下に敷いてある）。





◆長田谷津より

- ・埋まった湿地の復元で、掘り上げ作業をしました。掘った土といっしょにサワガニが何匹も出てきました(3/8)。掘った断面には、水がたまったトンネル状の穴がいくつもあり、そこで冬眠していたのかなと思いました。穴の中にいる現場は、確認できませんでした。
- ・湿地が埋まって激減しているタネツケバナが咲き出しました(3/13)。バラ園などには帰化植物のミチタネツケバナが生えていますが、在来の方の方が柔らかな感じで、見るとほっとします。

以上 金子謙一(自然博物館)

- ・シダレヤナギの枝にヒメヤママユの幼虫がいました(4/23)。広食性なので、様々な植物で幼虫の姿を見ることができます。

◆大町動物園内より

- ・フライングケージの裏の日当たりの良い場所で、ホソミイトトンボが飛んでいました(3/20)。

以上 稲村優一(自然博物館)

- ・ジロボウエンゴサクがザリガニ釣り場で咲き始めました(4/3)。ナラ枯れで大きなコナラが枯れて地上が明るくなったことで、数を増やしています。タチツボスミレも同様です。両者が混じって咲く群落は、ほんとうにきれいです。

金子謙一

- ・ザリガニ釣り場に、ヒヨドリの群れが水浴びに来ていました(4/17)。見ていると、ひっきりなしに水場に降りてきていました。おそらく渡りの途中の群れと思われます。

- ・スギの幹に、冬の間アカゲラが作ったと思われる巣穴があります。その穴から、シジュウカラが出てきました(4/27)。アカゲラの越冬用の巣穴を繁殖巣穴として利用しているようです。

◆大野町より

- ・駐車場でコチドリが餌を探していました(4/19)。ムクドリも何羽もおりにいました。

以上 稲村優一

◆じゅん菜池緑地より

- ・斜面林でサルトリイバラが咲いていました(4/6)。小さいけど可愛らしい花です。観察会だったので、見られてよかったです。スマホで撮影して拡大して見ると、その魅力に気づきます。

金子謙一

◆北国分より

- ・朝、ウグイスの鳴き声を聞きました(4/1)。ようやく春らしくなりましたが、ドウメキ谷津の桜はまだ蕾でした。

谷口敏子さん(北国分在住)

◆真間山より

- ・南側斜面林で、ウグイスの鳴き声を聞きました(3/9)。崖の工事で木がたくさん切られてしまい気がかりでしたが、鳴き声を聞くことができ、ホッとしました。寒暖差の激しい春の訪れです。

M. T. さん

寒暖差の大きい春の始まりでした。入学式の頃に桜が満開でしたが、その他の季節の進みは早く、新緑があつという間に青葉へと変わりました。

ホームページをご利用ください



自然博物館では、市川市域の自然に関する情報や解説を、ホームページ（webサイト）に掲載しています。展示室のパネルよりも、ホームページの方が情報量は格段に多いです。検索で「市川自然博物館」と入れていただき、下に示した画面が出てくれば、それが当館のホームページのトップです（検索1番目を開くと市川市役所のページに誘導されてしまう場合がありますので、その時は検索2番目を開いてみてください）。



ホームページの内容

- ・ご利用案内
- ・展示紹介、詳しい解説
- ・行事案内
- ・自然観察の記録、オリジナル動画
- ・博物館だより、出版物のご案内



＜行事のご案内＞

長田谷津は、
大町公園の自然観察園の
もともとの呼び名です。

○長田谷津散策会(申し込み不要・荒天中止)

季節の風景や動植物を楽しみながら、
ゆっくりと散策します。

集合：動物園券売所前 午前10時
解散：集合と同じ場所で 午前11時30分

○湿地の環境整備を

お手伝いしていただきませんか

(要問合せ・荒天中止)

学芸員と一緒に環境整備作業を行います。
たとえば……湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、
水路の整備、など

集合：観賞植物園 午前10時
解散：集合と同じ場所で 正午

初参加の方は

- ・・・お電話で博物館までお問合せください。
- 湿地の中に入る作業もありますので作業内容や身支度などについてご説明します。

	長田谷津散策会		湿地環境整備	
6月	15日	土曜日	23日	日曜日
7月	14日	日曜日	おやすみ	
8月	10日	土曜日	おやすみ	
9月	15日	日曜日	29日	日曜日
10月	19日	土曜日	27日	日曜日
11月	17日	日曜日	24日	日曜日
12月	14日	土曜日	22日	日曜日
1月	19日	日曜日	26日	日曜日
2月	15日	土曜日	23日	日曜日
3月	16日	日曜日	23日	日曜日

第37巻 第2号 (通巻第212号)

令和6年6月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477